

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [26229] シロリムス

受託開始日

- 平成26年12月22日(月)



シロリムス

リンパ脈管筋腫症（lymphangiomyomatosis, LAM）はLAM細胞が肺、体軸リンパ節などで増殖、病変を形成し、病変部位にリンパ管新生を伴う疾患です。比較的若年の女性にみられ、平均発症年齢は30歳代中頃ですが、男性での発症は極めて稀とされています。

進行は緩徐で不可逆的であり、労作性の息切れや気胸などの呼吸器症状や乳び腹水、下肢リンパ腫などを発症し、最終的には呼吸不全をもたらします。

LAMには結節性硬化症（TSC）に合併するTSC-LAMと、単独で発症する孤発性LAMがあり、本邦での有病率は100万人あたり約1.2～2.3人と推測されています。LAMは長い間原因不明の難病とされていましたが、1990年代にTSCの病因遺伝子（腫瘍抑制遺伝子）としてTSC1（第9染色体）およびTSC2（第16染色体）が発見され、病因および発症に関与していることが確認されました。

TSC1/TSC2遺伝子はそれぞれハマルチンとツベリンの2つの蛋白質をコードしており、これらの蛋白質が複合体を形成し、ラパマイシン標的蛋白質（mTOR）を制御しており、さらにmTORはmTORC1とmTORC2の2種類の複合体を形成します。mTORC1はmTOR、GβL、raptorの3種類の蛋白質から構成されており、活性化されることにより、蛋白合成や細胞の成長などを調節する働きがあります。また、TSC1/TSC2遺伝子変異によりハマルチン/ツベリン複合体の制御機能が失われると、恒常的にmTORが活性化されることでスイッチが入りっぱなしの状態となり、LAM細胞は増殖すると考えられています。

シロリムス（別名；ラパマイシン）はLAM治療薬として新しく登場したmTOR阻害剤で、mTORとraptorの結合を阻害し、mTORC1を抑制することにより、活性化されているLAM細胞の増殖を抑制し、治療効果を発揮します。

なお、シロリムスは吸収に個人差があるため血中濃度が変化しやすいとされています。体内への吸収は食餌内容による影響を受けやすく、また代謝はチトクロームP450（CYP3A4）を介して行われるので、併用薬によっては血中濃度が上昇しやすくなるため、血中濃度測定によるモニタリングが重要とされています。

検査要項

項目コード	26229
検査項目名	シロリムス
検体量／保存方法	EDTA加血液 1.0mL ／冷蔵 * 容器番号07番容器でご提出下さい。
検査方法	LC-MS/MS法
有効治療濃度	未設定 (参考トラフ推奨値：5～15 ng/mL [*])
所要日数	4～10日
検査実施料	未収載
主な商品名	ラパリムス錠 [®]
備考	※有効治療濃度は設定されておりません。 有効治療濃度欄の「参考トラフ推奨値」はあくまでリンパ脈管筋腫症治療時の投与量の目安としてご利用下さい。

参考文献

瀬山邦明：日本内科学会雑誌，99(7)，91～96，2010